O君の新秋

芥川龍之介

僕は膝（ひざ）を抱（かか）へながら、洋画家のO君と話してゐた。赤シャツを着たO君は畳（たたみ）の上に腹這（はらば）ひになり、のべつにバットをふかしてゐた。その又O君の傍（かたは）らには妙にものものしい義足が一つ、白足袋（たび）の足を仰向（あふむ）かせてゐた。

「まだ残暑と云ふ感じだね。」

O君は返事をする前にちよつと眉（まゆ）をひそめるやうにし、縁先（えんさき）の紫苑（しをん）へ目をやつた。何本かの紫苑はいつの間（ま）にか細（こま）かい花を簇（むらが）らせたまま、そよりともせずに日を受けてゐた。

「おや、こいつはもう咲いてゐらあ。この……何（なん）と

云つたつけ、団扇(うちは)の画の中にゐる花の野郎(やらう)は。」

×

海の音の聞えない、空気の澄んだ日の暮だつた。僕はやはりＯ君と一しよに広い砂の道を散歩してゐた。すると向うからお嬢さんが一人(ひとり)、生(い)け垣(がき)に沿うて歩いて来た。白地の絣(かすり)に赤い帯をしめた、可也(かなり)背(せい)の高いお嬢さんだつた。

「あ、あのお嬢さんは気の毒だなあ。長い脚を持て扱(あつか)つてゐる。」

実際その又お嬢さんの態度はＯ君の言葉にそつくりだつた。

×

Ｏ君は杖（つゑ）を小脇（こわき）にしたまま、或大きい別荘の裏のコンクリイトの塀に立ち小便をしてゐた。そこへ近眼鏡（きんがんきやう）か何かかけた巡査（じゆんさ）が一人（ひとり）通りかかつた。巡査は勿論咎（とが）めたかつたと見え、白扇（はくせん）でＯ君を指さすやうにした。

「これです。これです。」

Ｏ君は多少吃り（ども）ながら、杖で二三度右の脚を打つた。右の脚は義足だつたから、かんかん云つたのに違ひなかつた。

「僕の家（うち）はそこなんですが、……」

巡査はにやにや笑つたぎり、何も言はずに通りすぎてしまつた。

×

家々の屋根や松の梢（こずゑ）に西日の残つてゐる夕がただつた。僕はキヤンデイイ・ストアアの前に偶然Ｏ君と

顔を合せた。Ｏ君は久しぶりに和服に着換へ、松葉杖をついて来たのだつた。

「けふは松葉杖だね。」

Ｏ君は白い歯を見せて笑つた。

「ああ、けふはオオル（櫂《かい》）にしたよ。」

×

僕はＯ君の家《うち》へ遊びに行《ゆ》き、四畳半の電燈の下にいろいろのことを話し合つた。が、大抵《たいてい》は神経とかテレパシイとかの話だつた。Ｕと云ふ僕の友だちの一人《ひとり》は

コップに水を入れて枕もとへ置き、暫くたつてそのコップを見ると、いつか水が半分になつてゐる、或晩などはうとうとしてゐると、いきなり顔へ水がかかつた。しかし驚いて飛び起きて見ると、コップだけは倒れずにちやんとしてゐる、――そんな話も出たものだつた。

それから僕等は散歩かたがた、町まで買ひものに出かけることにした。するとO君はいつもに似合はず、肘掛け窓の戸などをしめはじめた。のみならず僕にかう言つて笑つた。

「この窓に明りがさしてゐるとね、どうもそとから帰

つて来た時に誰か一人(ひとり)ここに坐つて、湯でものんでゐさうな気がするからね。」

Ｏ君は勿論(もちろん)この家に自炊生活(じすゐせいくわつ)をしてゐるのである。

×

Ｏ君はけふも不相変(あひかはらず)赤シヤツに黒いチヨツキを着たまま、午前十一時の裏庇(うらびさし)の下に七輪(しちりん)の火を起してゐた。焚きつけは枯れ松葉や松蓋(まつかさ)だつた。僕は裏木戸(うらきど)へ顔を出しながら、「どうだね？　飯(めし)は炊(た)けるかね？」と言つた。が、Ｏ君はふり返ると、僕の問には答へずにあた

りの松の木へ顋(あご)をやつた。

「かうやつて飯を炊(た)いてゐるとね、松は皆焚きつけの木――だよ。」

×

パナマ帽をかぶつたO君は小高い砂丘に腰をおろし、せつせとブラツシユを動かしてゐた。柱だけの白いバンガロオが一軒、若い松の群立(むらだ)つた中にひつそりと鎧戸(よろひど)を下(おろ)してゐる。――それを写生してゐるのだつた。松は僕等の居まはりにも二三尺の高さに伸びたまま、

さすがに秋らしい風の中に青い松かさを実のらせてゐた。

「松ぼつくりと云ふものはこんな松にもなるものなんだね。」

O君はブラツシユを動かしながら、僕の方へ向かずに返事をした。

「女の子が妊娠（にんしん）したと云ふ感じだなあ。」

×

O君は本職の仕事の間（あひだ）にせつせと発句（ほつく）を作つてゐ

る。ちよつとＯ君を写生した次手(ついで)にそれ等の発句もつけ加へるとすれば——

らん竹(ちく)に鋏(はさみ)入れたる曇り哉(かな)
夜具綿(やぐわた)は糸瓜(へちま)の棚に干(ほ)しもせよ
わくら葉は蝶(てふ)となりけり糸すすき
うすら日を糸瓜(へちま)かはむけ井戸端に
ひときはにあをきは草の松林
大つぶもまじへて栗のはしり哉(かな)
鳳仙花種(ほうせんくわたね)をわりてぞもずのこゑ

（十五・十・十一鵠沼(くげぬま)）

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
　　１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。